

慶応三年五月七日より慶応三年五月十二日まで

P8310682right

出役替謝辞申来る、礫川より昨謝着、賀を兼、鰻一重贈られ、且才輔へも煙草一斤を贈り越す
藤山稽古に来る、正□佃煮少許(すこしばかり)持来、藤山と共に夕餐を勧む、番町両兒猶泊宿
八日酉 晴漸陰

出 殿 昨日小出大和守義、魯(○)国より金港へ入津せし旨、番町両兒帰りし旨、高畑(久)来り
リキニール

一瓶研革(とぎかわ*1)一枚才輔へサボン二を持来りし旨、藤山(陽)着、賀に来る

九日戌 薄晴

京都塚原(但)宅状昨届きしにより今朝為持遣す、保三母着、賀に来り此品持来縮緬袖口地等
遣す、出 殿、小出(和*)帰府登宮、石□五柄箱入扣とも手留帳二冊を贈らる、礫川藤山須崎(常)
快□正革□齊方へ坂地産品(縮緬切地)有馬細工、茶其外種々為持遣す

P8310682left

十日亥 雨

森山(多)昨着せしにて来る、面す、持役の謝也、出 殿

十一日子 陰漸晴

番町隠居来る、鶏卵一折、菓子等持来着賀の□ならん、松堅亭稽古に来る、出 殿、快□方より
坂地産品の謝としてそら豆(栽園)を贈越す、坂町より鶏卵一重割煮品二重贈り越し大助持進賀□
品初穂

の趣也、旧侍源一郎小品持来酬品遣す

十二日丑 晴午後薄陰

坂地帰着以来初めて亜英蘭尋問す英蘭へは出雲図書両州尋問有しに付随従□席

薄晚帰る、開成所より伊太利(イタリア)よりの書翰翻訳出来恵段断りにて右書翰返し来る、

朝比奈(甲)より

*0:魯(○)はロシア、現在は露を使用

*1:研革(とぎかわ)刃物を研ぐ革

*2:小出(和) 小出大和守秀実がロシア使節として慶応三年五月八日に帰国している。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。